

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合、地理探究』では、「地理総合」で学習したことで、それを基に「地理探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題等を含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略）

第2問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略）

第3問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(1) 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境と災害に関して、地形・気候等に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向等を多面的・多角的に考察する問いとなっている。問1は、地球上における地殻変動様式の違いがもたらす自然災害の発生形態の地域的差異と、最終氷期の寒冷環境がもたらした地形的痕跡（氷河地形）について判断する思考力、問2は、火山灰等の噴煙、軽石、潮位変化が遠方に及ぼす時間とスケールについて、卓越風や海流、津波等から推察する力、問3は、中緯度帯の三つの気候区の都市群を設定し、降水量の季節による違いと、大陸東岸・西岸・内陸の気候の特徴との関係を推察する力、問4は、オーストラリア大陸を例に、気圧帯の移動や、大陸内の気候分布、植生の違いから林野火災の原因を推察する力、問5は、地球温暖化に関連する気温、大気中の二酸化炭素濃度、北極の海水面積を取り上げ、それぞれ過去30年間の長期変化傾向と1年ごとの季節変化の幅や年変化の傾向の違いを推察する思考力、問6は、日本の国土像を構想するに当たり、都市周辺部の丘陵地において高度経済成長期以降に進展した人為的地形改変前後の地形図の読み取りから地形改変の様式と盛土造成地の災害リスクを推察する思考力を問うた。

第4問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(2) 資源、産業」に関する大問である。具体的には、「現代世界の資源や産業にみられる地域性は、どのような背景によって生じるのか」を中核的な発問とし、グラフや表、地図といった統計資料を用いた小問によって構成されている。問1は、世界の農業において土地生産性・労働生産性の地域差が生じる背景を考察する力を、問2は、各国の社会経済状況に応じて穀物の流通・消費構造に違いが生じることを考察する力を、問3は、各国の経済発展や森林政策によって木材の生産や需給が規定されることを推察する力を、問4は、各国の社会経済状況によって外貨獲得手段に違いが生じることを考察する力を、問5は、日本におけるサービス産業の立地パターンが人口分布や産業政策によって影響されることを推察する力を、問6は、日本の国土像を構想するに当たり、日本における製造業の立地が国土像の変容と密接に関わっていることを考察する力を問うた。

第5問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(4) 人口、都市・村落」に関する大問である。「都市規模の違いはどのように発生し、それによりどのよう

な問題が発生するのか」を中核的な発問とし、授業での学びを出発に、生徒が探究学習を展開する場面を想定した学習プロセス型の問いとなっている。問1は、国家の特性から生じる都市システムの特徴を推察する思考力を、問2は、規模の大きな都市が発揮する機能について推察する思考力を、問3は、都市機能の集中が都市にもたらす空間的特徴を思考する力を、問4は、都市への人口流出が進行する地方と大都市との関係性を思考する力を、問5は、フランスとドイツのそれぞれを代表例とする都市システムの特徴を推察し、日本の国土像に応用する思考力を問うた。

第6問 学習指導要領「地理探究」の「B 現代世界の地誌的考察」における「(2) 現代世界の諸地域」に関する大問である。北アメリカ及び中央アメリカについて、自然環境や、人やモノの移動及び歴史・文化を通して形成された地域の結び付きを題材に取り上げた。問1は、北アメリカ及び中央アメリカ全体の気候と、それぞれの地域の地形がもたらす降水量の地域差を推察する思考力を、問2は、アメリカ合衆国と陸地国境をもつ隣国との景観写真から両国の関係性を推察する思考力を、問3は、中央アメリカ諸国の経済の発展の度合いや歴史から生じる地域差を推察する思考力を、問4は、USMCA諸国間の輸出品の年次変化や各国間での輸出額の変動を推察する思考力を、問5は、地域的发展度や地理的近接性から各国の旅行者の動向を推察する思考力を問うた。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 (『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略)

第2問 (『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略)

第3問 地形・気候等に関わる諸事象について多面的・多角的に深く考察させたこともあり、総合的にやや難易度は高くなったと考える。外部団体からは、基本的な知識を用いて初見の図表を読み解く問いが多く、全体的にやや難問と評価された。問1は、各地域の自然環境と自然災害を結び付けて押さえていれば解答でき、標準的な問いであると評価された。問2は、世界各地の火山噴火に伴う影響とその被害について述べた文章を基に、様々な火山災害の特徴を空間的・時間的スケールから考察する良問と評価された。一方で、やや詳細な噴火の影響を理解していないと解答に戸惑うかもしれないとの指摘もあった。問3は、降水に関する指標を見慣れないグラフから判別することに戸惑った受験者もいるかもしれないが、難易度は標準的な問いであると評価された。また、リード文中の「気候帯」という語が指している内容がわかりにくく、受験者の学びに即した表現を求めたいとの指摘があった。問4は、オーストラリアの気候的特徴や熱帯収束帯の位置の季節的变化について理解していれば正解にたどりつける標準的な問いであると評価された。問5は、受験者にとって見慣れない図であるため時間を要するかもしれない難問と評価された。問6は、「切土地」「盛土地」が地形図でどのように表現されるのか、読図に慣れていないと時間を要し、解答は難しかったかもしれず、やや難問と評価された。初見の地図やグラフを読み解く知識・技能が求められ、教科書の記述が少ない内容についての問題もあり、難易度はやや高いとの指摘があったことから、学習内容に基づいた基礎的知識、図の読み取りや思考力をバランス良く組み合わせた作問を検討したい。

第4問 グラフや表、地図といった統計資料を適切に活用させたこともあり、小問によって若干の差異がみられるものの、大問全体として、おおむね標準的な難易度に収められたと考える。外部団体からも、総体的にみて、基本的知識やそれに基づく地理的思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されており、資料や文章量ともに適切であるとの評価を受けた。また本問の出題形式に対しては、多様な資料が用いられており、既習の基本的知識や地理的思考力を働かせ

て多面的に考察させるものであるとの評価を得た。具体的にみると、問3や問5は、基本的知識を基に考察させる問題であるのに対して、問1や問4及び問6は、資料を基に地理的思考力を働かせて考察させる問題となっており、両者がバランス良く配置されているとの評価を得た。中でも、前者のタイプに該当する問5、後者のタイプに該当する問4と問6は良問であると評価された。その一方で、問1～3は第一次産業、問4は直接投資や出稼ぎによる送金、問5は第三次産業、問6は日本の工業という内容構成であったため、第二次産業（特に鉱業）を問う要素に乏しく、内容構成にやや偏りがみられるという指摘も受けた。また、今年度の本試験では「資源、産業」に関する大問でウェーバーの工業立地論を取り上げた小問があったのに対して、追・再試験では理論を用いて考える内容の出題に乏しかったことが反省すべき点として指摘された。よって今後は、各小問における内容構成が偏ることのないよう留意するとともに、本試験と追・再試験の出題内容のバランスについても配慮した上で、より適切な問題作成に努めたいと考える。

第5問 生徒が探究学習を展開する場面を想定して構成したことで、大問全体としての難易度はほぼ標準的に収めることができたと考えられる。外部団体からは、都市や人口に関して、位置や分布、空間的相互依存作用等に着目して、都市や人口等の地理的事象に関する知識を基に、多面的・多角的に考察する問題で構成されていると評価を受けた。問1は、三つの国における都市圏の人口分布についての資料を読み取り、国土の広がりや経済の発展段階等による都市システムの違いを考察させており、難易度は標準的であるが、差がつく問題であったと評価された。問2は、日本の大都市における大企業の本社数と支所数についての資料を読み取り、日本の都市システムを考察させており、難易度は標準的で良問と評価された。問3は、住に関連した地理的事象についての階級区分図を読み取り、東京とその周辺の市区町村における空間構造を考察させており、難易度は標準的で、いくつかの地理的見方・考え方を働かせながら解答する点で良問と評価された。問4は、高度経済成長期に大都市圏への人口流出が大きかった県における人口動態についての資料を読み取り、人口動態及びその背景と影響を考察させており、難易度はやや容易と評価された。問5は、ヨーロッパの2か国における都市の分布と中枢管理機能の配置についての主題図を読み取り、それぞれの都市システムの特徴を考察させており、難易度は容易と評価された。全体として、難易度のばらつきがみられるとともに、プロセスとしてのストーリー性が伝わりにくかったところがあるので、設問同士のつながりや設問の表現を明瞭にする等工夫していきたい。

第6問 自然環境や人やモノの移動及び歴史・文化を通して形成された地域の結び付きを題材に多面的に取り上げたため、大問全体の難易度としてはやや高い結果となった。外部団体からは、北アメリカと中央アメリカに関して、多様な資料を読み取り、対象地域に関する知識を基に、空間的相互依存作用や地域等に着目して、自然環境、国境の景観、産業や民族の特徴、特徴的な輸出品、海外旅行者数等について、思考力、判断力を測る問題で構成されていると評価された。問1は、ケッペンの気候区分等を正確に理解した上で地形的な特徴を捉える必要があるが、難易度は標準的と評価された。移民・難民に対する考え方が揺れ動いている世相を反映した出題と推察されたが、写真も鮮明で正解するのは容易と評価された。問3は、人種・民族構成はこの地域を理解する上で基本的なデータだが、それ以外の指標は、それぞれの国の特徴を理解する必要があるため、難易度は比較的高いと評価された。問4は、USMCA間の各産業の輸出総額の推移を読み取らせており、カナダの指標が提示されているため難易度は標準的と評価された。問5は、カナダ、キューバ、メキシコの旅行者の動向について3か国の経済水準や各国との歴史的な経緯等も理解した上で判定させる良問と評価された。全体として、難易度がやや高く、

個々の知識に基づく判断が散見されたので、地域全体に対する概観に基づき、資料を基に思考・判断することが可能な問いを作成していきたい。

4 ま と め

今後の問題作成に当たっての留意点として以下に記す。

- (1) 「地理総合」、「地理探究」の学習指導要領の目標と内容に沿っており、全問題を通して高等学校での学習内容を踏まえた良問で構成されたとの評価を得た。場面設定型の問題では、探究の過程で授業場面や学習過程に沿った出題がされていると評された。その一方で、国土像をテーマとした問題の問い方に対する指摘もあった。テーマ間の多様性や資料・出題形式のバランスに加えて、引き続き「地理」がもつ意義やコンピテンシーに留意した問題作成の在り方を検討していきたい。
- (2) 本試験『地理総合、地理探究』と比較しても、全体として適正な難易度と評価された。本試験と追・再試験の難易度を合わせるとともに、『歴史総合、世界史探究』や『歴史総合、日本史探究』を始め地理歴史・公民科目と調整し、適切な難易度の問題作成を引き続き目指したい。
- (3) 全体として、地理に関する知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問うことが重視されているという評価を得た。一方、世界全図を含めた様々なスケールに根ざした地図利用について意見が付された。図表、写真の精選や視認性の向上を含め、今後もこれらの点は改善を進めていきたい。
- (4) 出題する地域やテーマの選定・配置に関するバランスは適切であったと思われるが、本試験とおおむね同じ分野やテーマになっていたという指摘もあった。また、豊富な資料と組合せ選択の問いについては、解答時間等を踏まえて過度に多くならないようにすること、そして出題分野に偏りがないう近年の世界情勢を踏まえた出題をすること等が要請された。受験者が高等学校等で身に付けた資質・能力を問える形式について引き続き追求していきたい。
- (5) 新課程の初年度試験として作問も手探りの部分も多々あったが、全体として高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿っており、資料の提示や出題バランス等はおおむね評価されたといえる。「地理総合」「地理探究」へ移行した中で、地理に関する知識・技能と思考・判断の両面を適切に問うことができ、かつ受験者にとって過度な負担がなく学習成果が反映される難易度・分量・形式で出題する努力を継続していきたい。